

大学番号：私立248

注3

[平成31年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

桃山学院大学 経営学部 ビジネスデザイン学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人桃山学院
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 大学統括部 学長室

職名・氏名 課長・金^{カナ}澤^{ザワ}太^タ郎^{ロウ}

電話番号 0725-54-3131

（夜間） 0725-54-3131

F A X 0725-54-3203

e-mail gaku-ji@andrew.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

経営学部

＜ビジネスデザイン学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	23
7. その他全般的事項	24

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人桃山学院

(2) 大学名

桃山学院大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒541-0056

大阪府大阪市中央区久太郎町3-5-19 大阪ディーアイシービル4階

(〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	イデタ ゼンゾウ 出田 善蔵 (平成28年5月)		
学長	マキノ ニナコ 牧野 丹奈子 (平成28年5月)		
学部長	マツオ ジュンスケ 松尾 順介 (平成30年10月)	フジタ トモコ 藤田 智子 (令和元年9月)	一身上の都合による前任者辞退のため変更、令和元年9月12日(2)
学科長等	アサダ タカユキ 浅田 孝幸 (平成31年4月)	キクチ マサヤ 菊地 昌弥 (令和2年4月)	任期満了のため変更、令和2年4月1日(2)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
経営学部 ビジネス デザイン学科 学士（経営学）	経済学関係	4年	70人	- 年次人	280人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	70 () [-]	人	70 () [-]	人	() []	人	() []	人	() []	人	1.08倍	- 倍	
志願者数	486 () [0]	- () [-]	317 () [0]	- () [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
受験者数	470 () [0]	- () [-]	285 () [0]	- () [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
合格者数	158 () [0]	- () [-]	134 () [0]	- () [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
B 入学者数	79 () [0]	- () [-]	73 () [0]	- () [-]	() []	() []	() []	() []	() []	() []			
入学定員超過率 B/A	1.12		1.04										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	79 [0] (-)	- [-] (-)	73 [0] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		77 [0] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3年次	/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
4年次	/		/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計	79 [0] (-)		150 [0] (-)		- [-] (-)		- [-] (-)		- [-] (-)		

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	79 人	2 人	令和元年度	2 人	0 人	家庭の事情(1人)、その他(1人)
令和2年度	150 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合計		2 人		人	人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{79} = \boxed{2.53} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{150} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
ドメイン科目	(選択)										
	フードシステム論	2後	2		1						
	店舗マネジメント	2後	2							1	
	高齢者と介護	2後	2								1
	食文化論	3前	2		1						
	農産物市場論	3前	2		1						
	子どもの暮らしと社会	3前	2								1
	食品産業論	3後	2		1						
	健康とスポーツ	3後	2								1
	地域とボランティア	3後	2								1
小計(20科目)	-	16	24	0	5	1	0	0	0	6	
教養・文化科目	小説・詩・俳句	1-2-3-4	2								1
	仕事で使う数学	1-2-3-4	2								1
	イラスト・絵画	1-2-3-4	2								1
	将棋・囲碁	1-2-3-4	2								1
	華道・茶道の心	1-2-3-4	2								1
	映像・メディア	1-2-3-4	2								1
	演劇・朗読	1-2-3-4	2								1
	政治・経済のニュース	1-2-3-4	2								1
	モチベーションとストレスケア	1-2-3-4	2				1				
	世界の宗教・人権	1-2-3-4	2								1
小計(10科目)	-	0	20	0	0	0	1	0	0	9	
インターンシップ	インターンシップ I	2通	2								1
	インターンシップ II	3通	2								1
	小計(2科目)	-	4	0	0	0	0	0	0	0	2
合計(69科目)	-	92	58	0	5	2	1	0	0	27	
卒業要件及び履修方法											
<p>実践演習16単位(必修)、スキル演習24単位(必修)、専門演習8単位(必修)、理論科目24単位(必修)、ドメイン科目のうち、1年次に履修する16単位(必修)、2年次春学期に履修する「ファミリー企業経営」・「ベンチャー企業経営」・「社会的企業経営」の3科目のうちから1科目2単位(選択必修)および2年次秋学期以降に履修するドメイン科目から14単位以上(選択)、教養・文化科目16単位以上(選択)、インターンシップ4単位(必修)を修得し、合計124単位以上修得すること。</p> <p>履修科目の登録の上限:年間40単位(可能な限り時間割固定)</p>											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
ドメイン科目	(選択)										
	フードシステム論	2後	2		1						
	店舗マネジメント	2後	2								1
	高齢者と介護	2後	2								1
	食文化論	3前	2		1						
	農産物市場論	3前	2		1						
	子どもの暮らしと社会	3前	2								1
	食品産業論	3後	2		1						
	健康とスポーツ	3後	2								1
	地域とボランティア	3後	2								1
小計(20科目)	-	16	24	0	3	0	0	0	0	7	
教養・文化科目	小説・詩・俳句	1-2-3-4	2								1
	仕事で使う数学	1-2-3-4	2								1
	イラスト・絵画	1-2-3-4	2								1
	将棋・囲碁	1-2-3-4	2								1
	華道・茶道の心	1-2-3-4	2								2
	映像・メディア	1-2-3-4	2								1
	演劇・朗読	1-2-3-4	2								1
	政治・経済のニュース	1-2-3-4	2								1
	モチベーションとストレスケア	1-2-3-4	2				1	0			
	世界の宗教・人権	1-2-3-4	2								1
小計(10科目)	-	0	20	0	0	0	1	0	0	10	
インターンシップ	インターンシップ I	2通	2			1					0
	インターンシップ II	3通	2								0
	小計(2科目)	-	4	0	0	1	0	0	0	0	0
合計(69科目)	-	92	58	0	5	2	0	0	0	24	
卒業要件及び履修方法											
<p>実践演習16単位(必修)、スキル演習24単位(必修)、専門演習8単位(必修)、理論科目24単位(必修)、ドメイン科目のうち、1年次に履修する16単位(必修)、2年次春学期に履修する「ファミリー企業経営」・「ベンチャー企業経営」・「社会的企業経営」の3科目のうちから1科目2単位(選択必修)および2年次秋学期以降に履修するドメイン科目から14単位以上(選択)、教養・文化科目16単位以上(選択)、インターンシップ4単位(必修)を修得し、合計124単位以上修得すること。</p> <p>履修科目の登録の上限:年間40単位(可能な限り時間割固定)</p>											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
実践演習	PBL入門Ⅰ	1前	4			0	1	1				1
	PBL入門Ⅱ	1後	4			2	0					1
	PBL応用Ⅰ	2前	4			1	1	1				
	PBL応用Ⅱ	2後	4			0	1	1				
	小計(4科目)	-	16	0	0	2	2	1	0	0		1
スキル演習	IT基礎	1前	2				1					
	ビジネス基礎	1前	2					1				
	ビジネスリーダーシップ	1前	2				1					
	ビジネス英語基礎	1後	2									1
	ビジネス英語応用	2後	2									1
	プレゼンテーション	1後	2			1						
	問題解決法	2前	2				1					
	フィールドワーク	2前	2			1						
	ビジネスモデル演習	2前	2				1					
	ロジカルシンキング	2前	2				2					
	ビジネスコミュニケーション	3前	2					1				
	ビジネスライティング	3後	2			0						
小計(12科目)	-	24	0	0	1	2	1	0	0		1	
専門演習	デザイン演習Ⅰ	3通	4			4	1					
	デザイン演習Ⅱ	4通	4			4	1					
	小計(2科目)	-	8	0	0	4	1	0	0	0	0	
理論科目	マーケティング	2前	2			1						
	テクノロジーとイノベーション	2前	2				1					
	ビジネスモデル	2前	2			0						
	アカウンティング	2後	2			1						
	組織デザインと人事管理	2後	2					1				
	起業とファイナンス	2後	2				1					
	ビジネスと法	3前	2			1						
	グローバルビジネス	3前	2									1
	商品企画	3前	2			1						
	プロジェクトマネジメント	3前	2			1						
	経営戦略	3後	2				1					
	ビジネスの社会性	3後	2									1
	マーケティング実践	3・4前	2	2		1						
	ビジネスモデル実践	3・4前	2	2		1						
	アカウンティング実践	3・4後	2	2		1						
	プログラム開発	2・3・4前	2	2								1
	環境・エネルギー	2・3・4前	2	2								1
	バイオ・農林水産	2・3・4後	2	2								1
	統計・データ分析	2・3・4後	2	2								1
小計(19科目)	-	24	14	0	3	2	1	0	0		6	
ドメイン科目	(必修)											
	食ビジネスA	1前	2			1						
	食ビジネスB	1後	2			1						
	農ビジネス	1前	2			1						
	福祉・医療・教育ビジネス	1前	2			1						
	健康・スポーツビジネス	1前	2			1						
	アパレル・住居ビジネス	1後	2			1						
	まちづくり・観光ビジネス	1後	2			1						
	ITビジネス	1後	2			1						
	(選択必修)											
ファミリー企業経営	2前		2		0							
ベンチャー企業経営	2前		2			1						
社会的企業経営	2前		2								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
ドメイン科目	(選択)										
	フードシステム論	2後		2		1					
	店舗マネジメント	2後		2							1
	高齢者と介護	2後		2							1
	食文化論	3前		2		1					
	農産物市場論	3前		2		1					
	子どもの暮らしと社会	3前		2							1
	食品産業論	3後		2		1					
	健康とスポーツ	3後		2							1
	地域とボランティア	3後		2							1
小計(20科目)	-	16	24	0	4	1	0	0	0	6	
教養・文化科目	小説・詩・俳句	1・2・3・4年		2							1
	仕事で使う数学	1・2・3・4年		2							1
	イラスト・絵画	1・2・3・4年		2							1
	将棋・囲碁	1・2・3・4年		2							1
	華道・茶道の心	1・2・3・4年		2							2
	映像・メディア	1・2・3・4年		2							1
	演劇・朗読	1・2・3・4年		2							1
	政治・経済のニュース	1・2・3・4年		2							1
	モチベーションとストレスケア	1・2・3・4年		2				1			
	世界の宗教・人権	1・2・3・4年		2							1
小計(10科目)	-	0	20	0	0	0	1	0	0	10	
インターンシップ	インターンシップⅠ	2通	2								0
	インターンシップⅡ	3通	2								1
	小計(2科目)	-	4	0	0	0	0	0	0	0	1
合計(69科目)	-	92	58	0	4	2	1	0	0	24	
卒業要件及び履修方法											
<p>実践演習16単位(必修)、スキル演習24単位(必修)、専門演習8単位(必修)、理論科目24単位(必修)、ドメイン科目のうち、1年次に履修する16単位(必修)、2年次春学期に履修する「ファミリー企業経営」・「ベンチャー企業経営」・「社会的企業経営」の3科目のうちから1科目2単位(選択必修)および2年次秋学期以降に履修するドメイン科目から14単位以上(選択)、教養・文化科目16単位以上(選択)、インターンシップ4単位(必修)を修得し、合計124単位以上修得すること。</p> <p>履修科目の登録の上限:年間40単位(可能な限り時間割固定)</p>											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験・実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨地実務実習】」による授業科目には「【臨】」、「【連携実務演習】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・ 担当教員変更により、「PBL入門Ⅰ」の教員の配置を「教授1」「准教授1」「講師1」から「准教授1」「講師1」「兼任1」に変更。
- ・ 担当教員変更により、「PBL入門Ⅱ」の教員の配置を「教授2」「准教授2」から「教授2」「兼任1」に変更。
- ・ 担当教員の就任辞退により「PBL応用Ⅱ」の教員の配置を「教授1」「准教授1」「講師1」から「教授0」「准教授1」「講師1」に変更。
- ・ 担当教員変更により、「ビジネスリーダーシップ」の教員の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・ 誤記により、「ビジネス英語基礎」「ビジネス英語応用」の教員の配置をそれぞれ「兼任2」から「兼任1」に変更。
- ・ 担当教員の就任辞退により「ビジネスライティング」の教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 担当教員の就任辞退により「ビジネスモデル」の教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 担当教員の就任辞退により「ファミリー企業経営」の教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 教育内容の充実のため、「華道・茶道の心」の教員の配置を「兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・ 担当教員の退職のため、「インターンシップⅠ」の教員の配置を「兼任1」から「兼任0」に変更。

【令和2年度】

- ・ クラス数の変更（再履修専用クラスの増設）および担当教員変更により、「PBL入門Ⅰ」の教員の配置を「教授1」「准教授1」「講師1」から「教授3」「兼任1」に変更。
- ・ クラス数の変更（再履修専用クラスの増設）および担当教員変更により、「PBL入門Ⅱ」の教員の配置を「教授2」「准教授1」から「教授3」「准教授1」に変更。
- ・ 担当教員の職位変更により、「PBL応用Ⅰ」の教員の配置を「教授1」「准教授1」「講師1」から「教授1」「准教授2」「講師0」に変更。
- ・ 担当教員の変更により、「PBL応用Ⅱ」の教員の配置を「教授1」「准教授1」「講師1」から「教授1」「准教授1」「兼任1」に変更。
- ・ 担当教員の職位変更により、「ビジネス基礎」の教員の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・ 誤記により、「ビジネス英語基礎」「ビジネス英語応用」の教員の配置をそれぞれ「兼任2」から「兼任1」に変更。
- ・ 担当教員の職位変更により、「問題解決法」の教員の配置を「准教授1」から「教授1」「准教授0」に変更。
- ・ 担当教員の変更により、「ビジネスモデル演習」の教員の配置を「准教授1」から「兼任1」に変更。
- ・ 担当教員の変更により、「ロジカルシンキング」の教員の配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・ 担当教員の職位変更により、「ビジネスコミュニケーション」の教員の配置を「講師1」から「准教授1」「講師0」に変更。
- ・ 担当教員の変更により、「ビジネスモデル」の教員の配置を「教授1」から「教授0」「兼任1」に変更。
- ・ 担当教員の職位変更により、「組織デザインと人事管理」の教員の配置を「講師1」から「准教授1」「講師0」に変更。
- ・ 担当教員の変更により、「起業とファイナンス」の教員の配置を「准教授1」から「兼任1」に変更。
- ・ 担当教員の職位変更により、「経営戦略」の教員の配置を「准教授1」から「教授1」「准教授0」に変更。
- ・ 担当教員の変更により、「ベンチャー企業経営」の教員の配置を「准教授1」から「准教授0」「兼任1」に変更。
- ・ 教育内容の充実のため、「華道・茶道の心」の教員の配置を「兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・ 担当教員の職位変更により、「モチベーションとストレスケア」の教員の配置を「講師1」から「准教授1」「講師0」に変更。
- ・ 担当教員の変更により、「インターンシップⅠ」の教員の配置を「教授1」「兼任1」に変更。
- ・ 担当教員の退職のため、「インターンシップⅡ」（令和3度開講科目）の教員の配置を「兼任1」から「兼任0」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
40 科目	29 科目	科目	69 科目	科目	科目	科目	科目	
				[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{69} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 新校舎完成までの期間 は、既存校舎を使用予 定だったが、ビルの1 フロア全体を賃借する ことに変更。(元) 積算誤りによる変更。 (2)		
	校舎敷地	85,862 m ² 86,378 m²	0 m ²	0 m ²	85,862 m ² 86,378 m²			
	運動場用地	84,176 m ²	0 m ²	0 m ²	84,176 m ²			
	小 計	170,038 m ² 170,554 m²	0 m ²	0 m ²	170,038 m ² 170,554 m²			
	そ の 他	14,405 m ² 5,716 m²	0 m ²	0 m ²	14,405 m ² 5,716 m²			
	合 計	184,443 m ² 175,754 m² 176,270 m ²	0 m ²	0 m ²	184,443 m ² 175,754 m² 176,270 m ²			
(2) 校 舎	専 用	62,929.16m ² 62,604.40m² 62,772.00m ²	0 m ²	0 m ²	62,929.16m ² 62,604.40m² 62,772.00m ²	大学全体 新校舎完成までの期間 は、既存校舎を使用予 定だったが、ビルの1 フロア全体を賃借する ことに変更。(元) 積算誤りによる変更。 (2)		
	(57,275.86m ²) (- 62,772.00m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(57,275.86m ²) (- 62,772.00m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	76室 83室	演 習 室 51室 49室 48室	実験実習室 8室	情報処理学習施設 9室 5人 (補助職員4人)	語学学習施設 2室 (補助職員0人)	大学全体 新校舎の設計変更に伴 う変更。(元) 教室の仕様変更による 変更(2)	
	新設学部等の名称			室 数				
(4) 専任教員研究室		経営学部ビジネスデザイン学科			16 14	室		
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 (1)
	経営学部 ビジネスデザイ ン学科	738,266 [231,341] 735,490 [230,923] 736,321 [230,539]	7,856 [2,294] 7,848 [2,293] 7,836 [2,290]	4,636 [4,634] 4,628 [4,628] 4,021 [3,452]	39,814 39,782 39,764	15,339 15,321 12,101		
	(735,490 [230,923]) (-736,321 [230,539])	(7,848 [2,293]) (-7,836 [2,290])	(4,628 [4,628]) (-4,021 [3,452])	(39,782) (-39,764)	15,321 (-12,101)			
計	738,266 [231,341] 735,490 [230,923] 711,181 [230,539]	7,856 [2,294] 7,848 [2,293] 7,836 [2,290]	4,636 [4,634] 4,628 [4,628] 4,021 [3,452]	39,814 39,782 39,764	15,339 15,321 12,101		(1)	
	(735,490 [230,923]) (-711,181 [230,539])	(7,848 [2,293]) (-7,836 [2,290])	(4,628 [4,628]) (-4,021 [3,452])	(39,782) (-39,764)	(15,321) (-12,101)			
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 レイアウト変更等によ る座席数変更。(元)		
	8,673m ²	724席 726席 746席		886,389冊 862,778冊 884,972冊				
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	11,966.42m ²	テニスコート		和弓・洋弓場				
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維持 方法 の 概 要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費：大学全体 図書購入費には電子 ジャーナル・データ ベースの整備費（運用 コスト含む）を含む。
	教員1人当り研究費等	715千円	495千円 715千円	図書購入費	3,868千円	3,868千円	3,868千円	
	共同研究費等	10,479千円	10,479千円	設備購入費	4,542千円	4,542千円	4,542千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	1,199千円	969千円	969千円	969千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、寄付金収入、雑収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	桃山学院大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
国際教養学部 英語・国際文化学科	4	275	-	1,110	学士 (国際教養学)	1.07	1.10	-	平成20	大阪府和泉市 まなび野1-1	平成30年度入学定員増(20) 平成31年度入学定員減(△15)
社会学部 社会学科	4	360	-	1,430	-	1.01	0.93	-	-	同上	平成30年度入学定員増(10)
社会学部 社会福祉学科	4	260	-	1,030	学士 (社会学)	1.02	0.95	-	昭和41	同上	
社会学部 社会福祉学科	4	100	-	400	学士 (社会福祉学)	1.00	0.88	-	平成10	同上	
法学部 法律学科	4	200	-	800	学士 (法学)	1.05	0.95	-	平成14	同上	
経済学部 経済学科	4	360	-	1,430	学士 (経済学)	1.02	0.98	-	昭和34	同上	平成30年度入学定員増(10)
経営学部 経営学科	4	295	-	1,150	-	1.07	0.98	-	-	同上	平成31年度入学定員減(△55)
経営学部 経営学科	4	225	-	1,010	学士 (経営学)	1.06	0.96	-	昭和48	同上	平成31年度入学定員減(△55)
経営学部 ビジネスデザイン学科	4	70	-	140	学士 (経営学)	1.08	1.04	平成31	平成31	大阪府中央区久太郎町3-5-19 大阪ディアーアイシビル4階	平成31年度届出による学科の設置(70)
大学全体	-	1,490	-	5,920	-	1.04	0.99	-	-	-	
博士前期課程 文学研究科 言語・文化専攻	2	10	-	20	修士 (文学)	0.10	0.20	-	平成5	大阪府和泉市まなび野1-1	
社会学研究科 応用社会学専攻	2	10	-	20	修士 (社会学)	0.55	0.70	-	平成12	同上	
経済学研究科 応用経済学専攻	2	10	-	20	修士 (経済学)	0.55	0.50	-	平成10	同上	
経営学研究科 経営学専攻	2	10	-	20	修士 (経営学)	0.57	0.30	-	平成5	同上	
博士後期課程 文学研究科 比較文化学専攻	3	4	-	12	博士 (文学)	0.00	0.00	-	平成11	同上	
社会学研究科 応用社会学専攻	3	3	-	9	博士 (社会学)	0.33	0.00	-	平成15	同上	
経済学研究科 応用経済学専攻	3	3	-	9	博士 (経済学)	0.49	1.00	-	平成14	同上	
経営学研究科 経営学専攻	3	3	-	9	博士 (経営学)	0.66	0.00	-	平成11	同上	
大学院全体	-	53	-	119	-	0.41	0.37	-	-	-	
大学の名称	桃山学院教育大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
人間教育学部 人間教育学科	4	175	-	695	学士 (教育学)	0.98	1.01	-	平成26	大阪府堺市南区榎塚台4-5-1	平成30年度入学定員増(5)
大学全体	-	175	-	695	-	0.98	1.01	-	-	-	

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<経営学部 ビジネスデザイン学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】			【令和元年度】			【令和2年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授 (学科長)	浅田 孝幸 (68) <平成31年4月> 博士(経営学)	専	教授 (学科長)	浅田 孝幸 (69) <平成31年4月> 博士(経営学)	専	教授 (学科長)	浅田 孝幸 (70) <平成31年4月> 博士(経営学)
		食ビジネスA アパレル・住居ビジネス ITビジネス ビジネスモデル実践 デザイン演習Ⅰ プロジェクトマネジメント デザイン演習Ⅱ			食ビジネスA アパレル・住居ビジネス ITビジネス ビジネスモデル実践 デザイン演習Ⅰ プロジェクトマネジメント デザイン演習Ⅱ			食ビジネスA アパレル・住居ビジネス ITビジネス PBL入門Ⅰ PBL入門Ⅱ ビジネスモデル実践 デザイン演習Ⅰ プロジェクトマネジメント デザイン演習Ⅱ
		朴 大栄 <平成31年4月> (67) 経営学修士			朴 大栄 <平成31年4月> (68) 経営学修士			朴 大栄 <平成31年4月> (69) 経営学修士
専	教授	農ビジネス 福祉・医療・教育ビジネス 健康・スポーツビジネス まちづくり・観光ビジネス アカウンティング ビジネスと法 デザイン演習Ⅰ アカウンティング実践 デザイン演習Ⅱ	専	教授	農ビジネス 福祉・医療・教育ビジネス 健康・スポーツビジネス まちづくり・観光ビジネス アカウンティング ビジネスと法 デザイン演習Ⅰ アカウンティング実践 デザイン演習Ⅱ	専	教授	農ビジネス 福祉・医療・教育ビジネス アパレル・住居ビジネス ITビジネス 健康・スポーツビジネス まちづくり・観光ビジネス ファミリー企業経営 アカウンティング ビジネスと法 デザイン演習Ⅰ アカウンティング実践 デザイン演習Ⅱ
		玄野 博行 <平成31年4月> (42) 博士(経営学)			玄野 博行 <平成31年4月> (43) 博士(経営学)			玄野 博行 <平成31年4月> (44) 博士(経営学)
		PBL入門Ⅱ 食ビジネスB フィールドワーク マーケティング 商品企画 マーケティング実践 デザイン演習Ⅰ デザイン演習Ⅱ			PBL入門Ⅱ 食ビジネスB 福祉・医療・教育ビジネス プレゼンテーション フィールドワーク マーケティング 商品企画 マーケティング実践 デザイン演習Ⅰ デザイン演習Ⅱ			PBL入門Ⅰ PBL入門Ⅱ 食ビジネスB 福祉・医療・教育ビジネス プレゼンテーション フィールドワーク マーケティング 商品企画 マーケティング実践 デザイン演習Ⅰ デザイン演習Ⅱ
専	教授	菊地 昌弥 <平成31年4月> (40) 博士(農業経済学)	専	教授	菊地 昌弥 <平成31年4月> (41) 博士(農業経済学)	専	教授 (学科長)	菊地 昌弥 <平成31年4月> (42) 博士(農業経済学)
		PBL入門Ⅱ PBL応用Ⅰ フードシステム論 食文化論 農産物市場論 食品産業論 デザイン演習Ⅰ デザイン演習Ⅱ			PBL入門Ⅱ PBL応用Ⅰ 食ビジネスA 食ビジネスB 農ビジネス フードシステム論 食文化論 農産物市場論 食品産業論 デザイン演習Ⅰ デザイン演習Ⅱ			PBL入門Ⅰ PBL入門Ⅱ PBL応用Ⅰ 食ビジネスA 食ビジネスB 農ビジネス フードシステム論 食文化論 農産物市場論 食品産業論 デザイン演習Ⅰ デザイン演習Ⅱ インターンシップⅠ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	永禮 弘之 ＜平成31年4月＞ (52) 文学士
		PBL入門Ⅰ ビジネスリーダーシップ プレゼンテーション ビジネスモデル ファミリー企業経営 PBL応用Ⅱ ビジネスライティング
専	准教授	大村 鍾太 ＜平成32年4月＞ (36) 博士(経営学)
		IT基礎 PBL入門Ⅱ テクノロジーとイノベーション PBL応用Ⅰ ロジカルシンキング デザイン演習Ⅰ デザイン演習Ⅱ
兼任	准教授	大村 鍾太 ＜平成31年4月＞ (36) 博士(経営学)
		IT基礎 PBL入門Ⅱ
専	准教授	藤田 勝利 ＜平成31年4月＞ (45) Master of Business Administration (米国)
		PBL入門Ⅰ 問題解決法 ビジネスモデル演習 ベンチャー企業経営 PBL応用Ⅱ ロジカルシンキング 起業とファイナンス 経営戦略
専	講師	酒井 之子 ＜平成31年4月＞ (54) 修士(経営学)
		PBL入門Ⅰ ビジネス基礎 モチベーションとストレスケア PBL応用Ⅰ PBL応用Ⅱ 組織デザインと人事管理 ビジネスコミュニケーション
兼任	教授	牧野 丹奈子 ＜平成33年4月＞ (57) 博士(経営学)
		ビジネスの社会性
兼任	講師	川井 太加子 ＜平成32年4月＞ (62) 博士(医療福祉学)
		高齢者と介護

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	担当者未定
		ビジネスモデル ファミリー企業経営 PBL応用Ⅱ ビジネスライティング
専	准教授	大村 鍾太 ＜平成32年4月＞ (37) 博士(経営学)
		IT基礎 PBL入門Ⅱ テクノロジーとイノベーション PBL応用Ⅰ ロジカルシンキング デザイン演習Ⅰ デザイン演習Ⅱ
兼任	准教授	大村 鍾太 ＜平成31年4月＞ (37) 博士(経営学)
		IT基礎 PBL入門Ⅱ
専	准教授	藤田 勝利 ＜平成31年4月＞ (46) Master of Business Administration (米国)
		PBL入門Ⅰ ビジネスリーダーシップ 問題解決法 ビジネスモデル演習 ベンチャー企業経営 PBL応用Ⅱ ロジカルシンキング 起業とファイナンス 経営戦略
専	講師	酒井 之子 ＜平成31年4月＞ (55) 修士(経営学)
		PBL入門Ⅰ ビジネス基礎 モチベーションとストレスケア PBL応用Ⅰ PBL応用Ⅱ 組織デザインと人事管理 ビジネスコミュニケーション
兼任	教授	牧野 丹奈子 ＜平成33年4月＞ (58) 博士(経営学)
		ビジネスの社会性
兼任	教授	川井 太加子 ＜平成32年4月＞ (63) 博士(医療福祉学)
		高齢者と介護

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	担当者未定
		ビジネスモデル ファミリー企業経営 PBL応用Ⅱ ビジネスライティング
専	准教授	大村 鍾太 ＜令和2年4月＞ (38) 博士(経営学)
		IT基礎 PBL入門Ⅱ テクノロジーとイノベーション PBL応用Ⅰ PBL応用Ⅱ ロジカルシンキング デザイン演習Ⅰ デザイン演習Ⅱ
兼任	准教授	大村 鍾太 ＜平成31年4月＞ (37) 博士(経営学)
		IT基礎 PBL入門Ⅱ
専	教授	藤田 勝利 ＜平成31年4月＞ (47) Master of Business Administration (米国)
		PBL入門Ⅰ ビジネスリーダーシップ 問題解決法 ビジネスモデル演習 ベンチャー企業経営 PBL応用Ⅰ PBL応用Ⅱ ロジカルシンキング 起業とファイナンス 経営戦略
専	准教授	酒井 之子 ＜平成31年4月＞ (56) 修士(経営学)
		PBL入門Ⅰ PBL入門Ⅱ ビジネス基礎 モチベーションとストレスケア PBL応用Ⅰ PBL応用Ⅱ 組織デザインと人事管理 ビジネスコミュニケーション
兼任	教授	牧野 丹奈子 ＜令和3年4月＞ (59) 博士(経営学)
		ビジネスの社会性
兼任	教授	川井 太加子 ＜令和3年4月＞ (64) 博士(医療福祉学)
		高齢者と介護

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	金澤 ますみ ＜平成33年4月＞ (41) 博士(学術)
		子どもの暮らしと社会
兼任	講師	竹内 靖子 ＜平成33年4月＞ (45) 修士(社会学) Master of Arts Health, Physical Education, and Recreation (米国)
		健康とスポーツ
兼任	講師	境 真理子 ＜平成31年4月＞ (66) 文学士
		映像・メディア
兼任	講師	棚橋 浩樹 ＜平成32年4月＞ (35) 学士(国際文化学)
		インターンシップ I
兼任	講師	長嶋 久恵 ＜平成33年4月＞ (60) 修士(人間科学)
		インターンシップ II
兼任	講師	田岡 敬造 ＜平成31年4月＞ (66) 文学士
		ビジネス英語基礎 ビジネス英語応用
兼任	講師	小椋 綾子 ＜平成33年4月＞ (47) 文学士
		グローバルビジネス
兼任	講師	八橋 元 ＜平成32年4月＞ (64) 工学修士
		環境・エネルギー

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	金澤 ますみ ＜平成33年4月＞ (42) 博士(学術)
		子どもの暮らしと社会
兼任	准教授	竹内 靖子 ＜平成33年4月＞ (46) 修士(社会学) Master of Arts Health, Physical Education, and Recreation (米国)
		健康とスポーツ
兼任	教授	境 真理子 ＜平成31年4月＞ (67) 文学士
		映像・メディア
		担当者未定
		インターンシップ I
兼任	講師	長嶋 久恵 ＜平成33年4月＞ (61) 修士(人間科学)
		インターンシップ II
兼任	講師	勝又 あずさ ＜平成31年4月＞ (55) 修士(政策・メディア)
		PBL入門 I PBL入門 II
兼任	講師	田岡 敬造 ＜平成31年4月＞ (67) 文学士
		ビジネス英語基礎 ビジネス英語応用
兼任	講師	小椋 綾子 ＜平成33年4月＞ (48) 文学士
		グローバルビジネス
兼任	講師	八橋 元 ＜平成32年4月＞ (65) 工学修士
		環境・エネルギー

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	金澤 ますみ ＜令和3年4月＞ (43) 博士(学術)
		子どもの暮らしと社会
兼任	准教授	竹内 靖子 ＜令和3年4月＞ (47) 修士(社会学) Master of Arts Health, Physical Education, and Recreation (米国)
		健康とスポーツ
兼任	教授	境 真理子 ＜平成31年4月＞ (68) 文学士
		映像・メディア
		担当者未定
		インターンシップ I
兼任	准教授	村橋 功 ＜令和2年4月＞ (58) 修士(社会福祉学)
		高齢者と介護
兼任	講師	長嶋 久恵 ＜平成33年4月＞ (61) 修士(人間科学)
		インターンシップ II
兼任	講師	勝又 あずさ ＜平成31年4月＞ (55) 修士(政策・メディア)
		PBL入門 I PBL入門 II
兼任	講師	田岡 敬造 ＜平成31年4月＞ (68) 文学士
		ビジネス英語基礎 ビジネス英語応用
兼任	講師	小椋 綾子 ＜令和3年4月＞ (49) 文学士
		グローバルビジネス
兼任	講師	八橋 元 ＜令和3年4月＞ (66) 工学修士
		環境・エネルギー

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	中村 光三 ＜平成32年4月＞ (66) 工学修士
		バイオ・農林水産
兼任	講師	芦田 昌也 ＜平成31年4月＞ (51) 博士(工学)
		仕事で使う数学 統計・データ分析 プログラム開発
兼任	講師	隅田 耕史 ＜平成32年4月＞ (37) 学士(文学)
		社会的企業経営
兼任	講師	小山 剛 ＜平成32年4月＞ (64) 経営学士
		店舗マネジメント
兼任	講師	石田 易司 ＜平成33年4月＞ (70) 文学士
		地域とボランティア
兼任	講師	諸岡 知徳 ＜平成31年4月＞ (47) 博士(文学)
		小説・詩・俳句
兼任	講師	松田 純 ＜平成31年4月＞ (41) 学士(史学)
		イラスト・絵画
兼任	講師	山口 絵美菜 ＜平成31年4月＞ (23) 学士(文学)
		将棋・囲碁
兼任	講師	細坪 弘美 ＜平成31年4月＞ (52) 短期大学卒
		華道・茶道の心

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	中村 光三 ＜平成32年4月＞ (67) 工学修士
		バイオ・農林水産
兼任	講師	芦田 昌也 ＜平成31年4月＞ (52) 博士(工学)
		仕事で使う数学 統計・データ分析 プログラム開発
兼任	講師	隅田 耕史 ＜平成32年4月＞ (38) 学士(文学)
		社会的企業経営
兼任	講師	小山 剛 ＜平成32年4月＞ (65) 経営学士
		店舗マネジメント
兼任	講師	石田 易司 ＜平成33年4月＞ (71) 文学士
		地域とボランティア
兼任	講師	諸岡 知徳 ＜平成31年4月＞ (48) 博士(文学)
		小説・詩・俳句
兼任	講師	松田 純 ＜平成31年4月＞ (42) 学士(史学)
		イラスト・絵画
兼任	講師	山口 絵美菜 ＜平成31年4月＞ (24) 学士(文学)
		将棋・囲碁
兼任	講師	細坪 弘美 ＜平成31年4月＞ (53) 短期大学卒
		華道・茶道の心
兼任	講師	加龍 哲郎 ＜平成31年4月＞ (57) 高等学校卒
		華道・茶道の心

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	中村 光三 ＜令和2年4月＞ (68) 工学修士
		バイオ・農林水産
兼任	講師	芦田 昌也 ＜平成31年4月＞ (53) 博士(工学)
		仕事で使う数学 統計・データ分析 プログラム開発
兼任	講師	隅田 耕史 ＜令和2年4月＞ (39) 学士(文学)
		社会的企業経営
兼任	講師	小山 剛 ＜令和2年4月＞ (66) 経営学士
		店舗マネジメント
兼任	講師	石田 易司 ＜令和3年4月＞ (72) 文学士
		地域とボランティア
兼任	講師	諸岡 知徳 ＜平成31年4月＞ (49) 博士(文学)
		小説・詩・俳句
兼任	講師	松田 純 ＜平成31年4月＞ (43) 学士(史学)
		イラスト・絵画
兼任	講師	山口 絵美菜 ＜平成31年4月＞ (25) 学士(文学)
		将棋・囲碁
兼任	講師	細坪 弘美 ＜平成31年4月＞ (54) 短期大学卒
		華道・茶道の心
兼任	講師	加龍 哲郎 ＜平成31年4月＞ (58) 高等学校卒
		華道・茶道の心

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀江 良信 ＜平成31年4月＞ (48) 社会学士
		演劇・朗読
兼任	講師	毛利 八郎 ＜平成31年4月＞ (63) 教育学士
		政治・経済のニュース
兼任	講師	宮嶋 眞 ＜平成31年4月＞ (67) 文学修士
		世界の宗教・人権

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀江 良信 ＜平成31年4月＞ (49) 社会学士
		演劇・朗読
兼任	講師	毛利 八郎 ＜平成31年4月＞ (64) 教育学士
		政治・経済のニュース
兼任	講師	宮嶋 眞 ＜平成31年4月＞ (68) 文学修士
		世界の宗教・人権

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀江 良信 ＜平成31年4月＞ (50) 社会学士
		演劇・朗読
兼任	講師	毛利 八郎 ＜平成31年4月＞ (65) 教育学士
		政治・経済のニュース
兼任	講師	宮嶋 眞 ＜平成31年4月＞ (69) 文学修士
		世界の宗教・人権
兼任	講師	岩田 千栄美 ＜令和2年4月＞ (39) 修士(都市政策)
		PBL応用Ⅱ PBL入門Ⅰ
兼任	講師	岡田 明穂 ＜令和2年4月＞ (59) 学士(経済学)
		ビジネスモデル ビジネスモデル演習
兼任	講師	奥田 浩二 ＜令和2年4月＞ (60) 博士(工学)
		ベンチャー企業経営 起業とファイナンス
兼任	講師	竹内 哲治 ＜令和2年4月＞ (55) 博士(経済学)
		統計・データ分析
		担当者未定
		インターンシップⅡ

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 - その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・「食ビジネスA」の担当を浅田孝幸教授から菊地昌弥教授に変更。
- ・「農ビジネス」「福祉・医療・教育ビジネス」の担当を朴大栄教授から菊地昌弥教授、玄野博行教授にそれぞれ変更。
- ・「食ビジネスB」の担当を玄野博行教授から菊地昌弥教授に変更。
- ・永種弘之教授就任辞退により、「PBL入門Ⅰ」の担当（3クラス中の1クラス）を勝又あずさ兼任講師（新たに就任）に、「ビジネスリーダーシップ」の担当を藤田勝利准教授に、「フレゼンテーション」を玄野博行教授にそれぞれ変更。「ビジネスモデル」（令和2年開講予定）、「ファミリー企業経営」（令和2年開講予定）、「PBL応用Ⅱ」（令和2年開講予定）、「ビジネスライティング」（令和3年開講予定）については、担当者未定。
- ・「PBL入門Ⅱ」の担当を大村鐘太准教授から勝又あずさ兼任講師に変更。
- ・棚橋浩樹兼担講師の退職により、「インターンシップⅠ」（令和2年開講予定）については、担当者未定。
- ・「華道・茶道の心」の担当に加龍哲郎兼任講師（新たに就任）を追加。
- ・誤記により「高齢者と介護」担当の川井太加子教授、「子供の暮らしと社会」担当の金澤まづみ准教授、「健康とスポーツ」担当の竹内靖子准教授、「映像・メディア」担当の境真理子教授の職名をそれぞれ修正。

【令和2年度】

- ・「アパレル・住居ビジネス」「ITビジネス」の担当を浅田孝幸教授から朴大栄教授に変更。
- ・「PBL入門Ⅰ」の担当を藤田勝利教授、酒井之子准教授、勝又あずさ兼任講師から、浅田孝幸教授（再履修専用クラス増設分）、菊地昌弥教授、玄野博行教授、岩田千栄美兼任講師に変更。
- ・「PBL入門Ⅱ」の担当を勝又あずさ兼任講師から、浅田孝幸教授（再履修専用クラス増設分）、酒井之子准教授に変更。
- ・「PBL応用Ⅰ」の担当を菊地昌弥教授から、藤田勝利教授に変更。
- ・「PBL応用Ⅱ」の担当を酒井之子准教授、「未定」から、大村鐘太准教授、岩田千栄美兼任講師に変更。
- ・「ビジネスモデル演習」の担当を、藤田勝利教授から、岡田明穂兼任講師に変更。
- ・「ロジカルシンキング」の担当を藤田勝利教授から、大村鐘太准教授（2クラス担当）に変更。
- ・「ビジネスモデル」の担当を「未定」から、岡田明穂兼任講師に変更。
- ・「起業とファイナンス」の担当を藤田勝利教授から、奥田浩二兼任講師に変更。
- ・「ファミリー企業経営」の担当を「未定」から、朴大栄教授に変更。
- ・「ベンチャー企業経営」の担当を藤田勝利教授から、奥田浩二兼任講師に変更。
- ・「高齢者と介護」の担当を川井太加子兼担教授から、村橋功兼担教授に変更。
- ・「インターンシップⅠ」の担当を「未定」から、菊地昌弥教授に変更。
- ・「インターンシップⅡ」（令和3年開講予定）の担当を長嶋久恵兼担講師から、「未定」に変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十条別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) 一② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
5	2	1	0	8	0	5	2	0	0	7	0
(4)	(1)	(1)	(0)	(6)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
5	2	0	0	7	0	5	2	1	0	8	0
[0]	[0]	[Δ1]	[]	[Δ1]	[]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) 一③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
70	0	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) 一④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{7}{8} = \boxed{87.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{0}{7} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	永禮 弘之	H30.12	必修	PBL入門Ⅰ	①	H30.12 一身上の都合により就任辞退（元）						
				必修	ビジネスリーダーシップ	①							
				必修	プレゼンテーション	①							
				必修	ビジネスモデル	②							
				選択	ファミリー企業経営	①							
				必修	PBL応用Ⅱ	②							
合計（D）				後任補充状況の集計（E）									
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
1	人	必修	6	科目	必修	3	科目	必修	2	科目	必修	1	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	4	科目	計	2	科目	計	1	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計（F）				後任補充状況の集計（G）						
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員についてに記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）									
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
1	人	必修	6	科目	必修	3	科目	必修	2	科目	必修	1	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	4	科目	計	2	科目	計	1	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{8} = 12.5 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当者なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>就任辞退教員について、2019（令和元）年度の本学科開設前の辞退であるため、同年度中に学生への周知を済ませている。また、担当予定であった各科目については、他の専任教員（教授）や新たに採用した非常勤講師が担当する。当該非常勤講師は、指導、研究、教育等の各実績を精査したうえで採用しており、教育の質を十分に担保できるものと考えている。しかしながら、後任教員の採用活動については、継続して行う予定である。</p> <p>令和3年度以降の開講科目については、後任教員が確定次第、改めて周知する。</p>
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
届出時 (平成30年)	<p>・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p>遵守事項</p> <p>今年度内に年齢バランスを考慮した完成年度以降の教員組織の編成について、必要な学内手続きを完了させる。</p>	<p>履行済</p> <p>学部への改組（学部の設置の届出）および収容定員の変更に係る学則変更（認可申請）の手続き中であり、それに向けた学内手続きは完了している。</p>
	<p>・運動場が別置にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。</p>	<p>遵守事項</p> <p>本学科のカリキュラムには体育は含まれておらず教育への支障はない。また授業は基本的に4限目（終了時刻16時40分）までで編成されており、学生は和泉キャンパスで行われる課外活動にも参加可能である。週末の授業も、今年度は春学期に選択科目が2科目配置されているのみである。課外活動の情報は、学生生活全般のガイドブック「Campus Guide」で案内しているほか、オフィスに担当者も配置し相談・サポート体制を整えている。</p>	<p>履行中</p>
設置計画履行状況調査時 (令和元年)	<p>・該当なし</p>		

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<経営学部 ビジネスデザイン学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>①キャンパスの立地 住所：大阪市阿倍野区昭和町1-64</p> <p>②施設・設備 a. 講義室 403㎡(145㎡×1、146㎡×1、112㎡×1) b. コモンスペース 78㎡□ c. 医務室 22㎡ d. 個人研究室 66㎡ (8.25㎡×8) e. 兼任講師控室兼会議室 53㎡ f. オフィス 69㎡□ g. 倉庫 44㎡ 施設全体 約735㎡</p>	<p>①学科専用の建物が完成するまでの間（2019（平成31）年4月～2020（令和2）年8月）、当初はキャンパス内の建物を改修して授業を実施する計画であったが、学生の修学環境を向上させるため、上記期間中は大阪市内のビルの1フロアを改修して授業を実施する。 住所：大阪市中央区久太郎町3-5-19 大阪ディーアイシービル4F</p> <p>②施設・設備について、設置時の計画では講義室を1階と3階に、個人研究室を2階に配置せざるを得ず、また、構造上エレベータの設置もできない環境であった。ビルの1フロアとなることで、学生の利用スペースの拡大に加え教員へのアクセスが容易となり、授業外学修の促進に繋がるなど密度のある学修環境を整備した。 a. 講義室 411㎡(222㎡×1、189㎡×1) ※各々2分割可 b. コモンスペース 96.2㎡ c. 医務室 16.9㎡ d. 学生相談室 9㎡ (4.5㎡×2) □ e. 学長・学科長室 14.3㎡ f. 個人研究室 66㎡ (8.3㎡×8) g. 兼任講師控室 30.6㎡ h. オフィス 110.2㎡ i. 倉庫 9.1㎡ j. 待合 32.2㎡ 施設全体 約1,012㎡</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>桃山学院大学に、全学ファカルティ・ディベロップメント(教育活動の質的向上・発展に関して組織的かつ恒常的に行う活動をいう。以下「FD」という。)推進委員会(以下、「委員会」という。)を置く。 (全学ファカルティ・ディベロップメント(FD)推進委員会規程第1条)</p> <p>委員会は、学部・研究科および学内諸組織が行うFDを支援するとともに、全学的かつ恒常的にFDの検討を行い、その質的充実を図ることを目的とする。 (全学ファカルティ・ディベロップメント(FD)推進委員会規程第2条)</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>委員長は副学長が務め、委員は各学部教授会と共通教育機構から選出された教員（各1名）、その他委員長が認めた者により構成され、月1回程度実施している。2019（令和元）年度は年間8回開催した。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育活動の質的向上に向けた施策の検討と推進 2. 学生の学習能力の育成、学習支援に関わる施策の検討と推進 3. 講演会および研修会等の企画立案 4. 学部・研究科および学内諸組織が行うFDに対する支援 5. 他大学等のFDに関する資料、セミナー等の情報の収集と学内諸組織への提供 6. 各年度における本学FDの総括的把握と検討 7. その他FDの推進に必要な事項 <p>(全学ファカルティ・ディベロップメント(FD)推進委員会規程第5条)</p>
--

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 授業評価アンケートの実施
- ・ SA・TA制度の運用
- ・ 全学FD研修会の開催
- ・ 授業見学の実施
- ・ FD NEWSの発行

b 実施方法

授業評価アンケートは、各学期に実施期間を決め、対象科目の授業時間内に実施している。集計結果に担当教員が所見を入力し、学内で公表している。SA・TA制度は、学内規程に則って運用している。全学FD研修会は、本学が取り組みたいと考えているテーマで、学内外の識者を講師として招き、講演を実施している。授業見学は、推薦された科目にて委員による見学を行った。FD NEWSは、委員会の取り組みを紹介し学内へ発信すると同時に、大学公式Webサイトでも公開している。経営学部ビジネスデザイン学科では、既設の学部とキャンパスや教育課程が異なるので別途にアンケートを作成し調査を行っている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

授業評価アンケートは、演習・実習科目を除く全科目で専任・兼任問わず各学期実施している。SA・TA制度は、専任教員・共通教育機構講師を対象として実施している。全学FD研修会は、年2回程度実施しており、専任、兼任を問わず学内の教職員を対象に実施している。授業見学は、学期ごとに実施した。FD NEWSは、年2回程度発行している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業評価アンケートは、アンケート実施科目結果を教員へフィードバックし、教員が結果に対して改善計画や所見を入力することで、各科目の授業改善に取り組んでいる。SA・TA制度は、授業にSA・TAが関わることにより、教える側と教えられる側双方の学生の能力向上や授業の改善に役立っている。全学FD研修会は、研修会を通じて共有した知見を授業改善に役立てている。FD NEWSはFD委員会の取り組みや授業見学報告を掲載し、授業での取り組みを共有することで授業改善に取り組んでいる。経営学部ビジネスデザイン学科では、b 実施方法に記載のアンケートの結果を、毎週実施される学科会議において授業の進捗や学生情報等と共に本学科所属の教員全員で共有し、授業の改善に活かしている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期実施している。

実施時期 春学期：2019（令和元）年 6月24日（月）～7月 6日（土）

秋学期：2019（令和元）年12月 2日（月）～12月14日（土）

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケートの実施状況は大学公式Webサイトにて公開している。集計結果の詳細および教員の所見は限定公開（学内設置のPCでのみ閲覧可）している。また、集計結果（教員の所見含む）の冊子も毎回作成しており、図書館に配架している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

経営学部ビジネスデザイン学科は、2019（平成31）年4月、経営学部経営学科を基礎としながら、次に記載する人材の育成が求められていると認識し、社会の変革をリードできるアントレプレナー（起業家）としての素養と実行力を備えた人材（イントラプレナー（社内起業家）や社会起業家を含む）を育成することを目的として設置された。

- (a) AI社会において求められる高度なクリエイティブかつコミュニケーション力を備えた人材
- (b) 予測困難で変化の激しい社会において人生100年時代を生き抜くことができる人材

教育課程については変更なく開講・実施している。教員組織については教授1名の就任辞退があったものの、後任を配置するなど概ね計画通り段階的に編成・維持している。「実践演習」（4科目）においては、実務家教員2名を配置し、60を超える企業・行政・団体の企業人と共に学ぶ問題解決型学習（PBL）を実践している。入学者選抜は計画どおり実施し、2019（令和元）年度入学者は79名、2020（令和2）年度入学者は73名であった。施設・設備等については、校舎等施設の整備計画に一部変更があり、開設当初の2019（平成31）年4月から2020（令和2）年8月までは、本町BDL（ビジネスデザインラボ）（大阪市中央区久太郎町3-5-19 大阪ディーアイシービル4F）において授業を実施し、2020（令和2）年9月から当初の予定通りあべのキャンパス（大阪市阿倍野区昭和町3-1-64）で授業を実施する。

以上のことから、現時点において一部計画の変更があったものの、達成状況は概ね良好である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・2021（令和3）年4月 公表（予定）

b 公表方法

- ・大学公式Webサイト上に公開予定（同上）

③ 認証評価を受ける計画

- ・2021（令和3）年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審予定

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

- a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

- b 公表（予定）時期 [2020（令和2）年 7月末日頃]
c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載]

《aで公表「無」の場合》

- d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。